作業開始前に本書を必ず一通りお読みになり、
内容をよく理解してから作業を始めて下さい。

HONDA GB350（2BL-NC59）
POWER BOX PIPE
（ブラックエディション）
取付説明書

※ GB350 S への装着不可

<取付所要時間の目安>
約30分

<商品内容>

① POWERBOX パイプ	×1	③ 内歯付ワッシャー（M6）	×1
② フランジナット（M6）	×1	④ フランジナット（M8）	×1

⚠ 耐熱ブラック塗装仕様をお買い上げのお客様へ

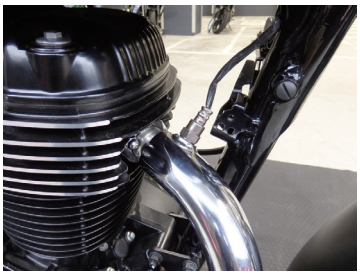
パイプの塗装面に手垢など、汚れが付着しない様に
素手による作業は行わず、必ず軍手をしながら作業して下さい。
また、パイプの塗装面に傷を付けない様にウェスやビニールを巻いておくなど、
あらかじめ養生をしてから作業する事をおすすめします。

※ 本説明書内の写真は試作品の為、実際の商品とはパイプの形状等、一部異なる場合があります。
※ 作業は平坦な場所でエンジン、マフラーが完全に冷えた状態で行なって下さい。
※ 本製品にはエキゾーストガスケットは付属しておりません。取り付け後の排気漏れを防ぐ為にも車種専用の物をご購入の上、新品に交換して下さい。
※ 作業時のキズ付き防止の為に、マフラー取り付け部廻りの塗装部分にはあらかじめガムテープ等を 貼って養生しておく事をお勧めします。

❶ 純正エキゾーストパイプを取り外します。

※ センタースタンドを立て、車体を安定させた状態で作業します。

サイレンサーを固定している2ヶ所を緩め、サイレンサーボディーをエキゾーストパイプから抜き取ります。
ボルト類は後で再使用します。

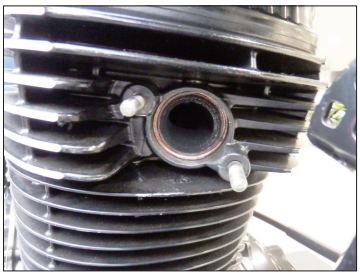


排気ガスセンサーを取り外します。
（後でパワーボックスパイプに取り付けます。）
配線に無理な力をかけて断線しない様に
注意して下さい。

右ステップそばのフレームに固定されている
アース線の端子を取り外しておきます。
固定しているボルトは後で再使用します。

純正パイプをフレームに固定している箇所
のボルトを緩め、抜き取ります。
ボルト類は後で再使用します。

純正パイプをエンジンに固定している
フランジ部のナット2点を取り外し、
パイプをゆっくりと車体から取り外します。
（アース線を断線させない様に注意！）
ナットは後で再使用します。



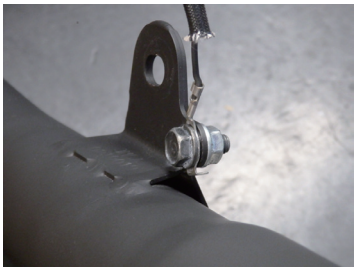
排気ポートのエキゾーストガスケットを
新品に交換します。（車種専用サイズの
ものを別途お買い求め下さい。）

⚠

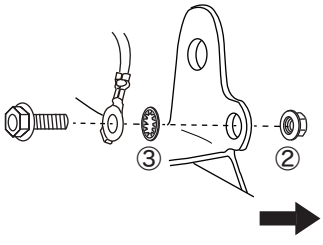
排気ガスセンサーをマフラーに固定する前にメインスイッチを ON にしますと、
センサーの異常を感知してメーターの警告灯が点灯してしまいます。
一度点灯した警告灯は簡単に解除できません。
排気ガスセンサーを固定してマフラー交換作業が完全に終了するまで
メインスイッチは絶対に ON にしないで下さい。
万が一警告灯を点灯させてしまった場合には車輌ご購入先のバイクショップに
相談して下さい。

❷ POWERBOX パイプを仮組みします。

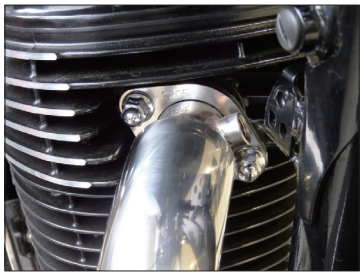
※ 本説明書内では白黒印刷でも見やすい様に無塗装仕様の画像でご説明しています。



アース線を純正パイプから取り外し、片方の端子を
同梱の ②フランジナット（M6）、
③ 内歯付ワッシャー（M6）を使用して
POWERBOXパイプに本締め固定します。



※ ③ 内歯付ワッシャー（M6）には
表・裏の向きはありません。



POWERBOXパイプをエンジンに
仮組みします。（純正のナットを再使用。）

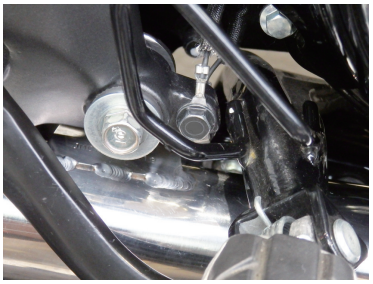
純正マフラーの時と同じ様にパイプ中間部の
固定箇所をフレームに仮止めします。
（純正のボルト、平ワッシャを再使用し、内側には
同梱の ④フランジナット（M8）を使用。）

サイレンサー差し込み部のジョイントガスケットを
きれいに取り除いておきます。
POWERBOX パイプの組み付けには
ジョイントガスケットは使用しません。その代わりに
組み付け後の排気漏れを防ぐために液体ガスケットを
内側に塗っておく事をおすすめします。（別途ご用意下さい。）

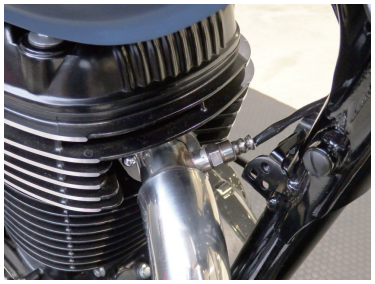
サイレンサーボディーを
パワーボックスパイプに挿入します。

サイレンサー上部の固定箇所を
仮止めします。固定には純正の
ボルト類を再使用します。

POWERBOX パイプとの接合部の
バンドを仮締めします。



純正パイプの時と同じ様にアース線の端子を
フレームに固定します。
（配線に無理がかからない様、取り回しに注意！）



排気ガスセンサーを
POWERBOXパイプに組み付けます。
配線を傷めない様に注意しながら
組み付け、本締め固定します。

⚠

排気ガスセンサーをマフラーに固定する前にメインスイッチを ON にしますと、
センサーの異常を感知してメーターの警告灯が点灯してしまいます。
一度点灯した警告灯は簡単に解除できません。
排気ガスセンサーを固定してマフラー交換作業が完全に終了するまで
メインスイッチは絶対に ON にしないで下さい。
万が一警告灯を点灯させてしまった場合には車輌ご購入先のバイクショップに相談して下さい。

❸ 各部のクリアランスや取付状態をよく確認し、仮組みしていた箇所全てを本締めします。

⚠

本締め後、パーツクリーナーなどの有機溶剤を使用して拭き上げる事は絶対にしないで下さい。 塗装が剥がれてしまいす。
塗装面には汚れを一切付けない様に保護しながら作業を完了させる様にして下さい。
汚れが付いてしまった場合には水を含ませ、固く絞った綺麗なウェスで優しく拭き上げて下さい。

❹ エンジンを始動し、各接合部から排気漏れの無い事を確認しましたら作業終了です。

※ ご使用開始直後はしばらく独特な臭いがしたり、マフラー表面から白煙が発生します。
表面の耐熱塗装が馴染むまでの現象です。 ご使用していくうちに徐々に収まっていきます。
また、走行風で冷却しながらを熱を加えて行く事で塗膜はより安定して定着していきます。
マフラー装着直後は急激に高温にならない様長時間の暖機運転は避け、走行風を十分に当てながら30分程度走行して下さい。
※ マフラーがまだ熱いうちにウェスなどで拭き掃除をすることは絶対にしないで下さい。
車体カバーも十分に冷めてから掛けて下さい。
※ お手入れにはシンナーやパーツクリーナーなどの有機溶剤は絶対に使用しないで下さい。
※ 安全にご使用いただく為にも取り付け状態やボルトの緩みのチェックは定期的に行なって下さい。
※ 製品によっては、マフラー本体に小さな穴を空けている事があります。これは水抜き用に設けられた穴ですので、
特に問題はございません。

上記内容も合わせて良くご理解いただいた上でご使用下さい。